

厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）  
総括研究報告書

**DHEAT 及び IHEAT 等の役割の検討と連携体制の再構築に向けた研究**

研究代表者	市川 学（芝浦工業大学システム理工学部 教授）
研究協力者	服部 希世子（熊本県人吉保健所 所長）
研究分担者	千島 佳也子（国立病院機構本部 DMAT 事務局 主査）
研究分担者	原田 奈穂子（岡山大学ヘルスシステム統合科学研究科 教授）
研究分担者	富尾 淳（国立保健医療科学院健康危機管理研究部 部長）
研究分担者	小森 賢一郎（国立保健医療科学院健康危機管理研究部 研究員）

**研究要旨：**

本研究は、災害時における保健危機管理支援体制の強化を目的とし、DHEAT、IHEAT、および行政支援リーダーの役割と機能の整理、活動要領の策定、情報システムの整備を行った。IHEAT の制度化に伴い、DHEAT が災害時に果たすべき役割や事務局機能の要件を整理し、訓練を通じて DHEAT が直面する課題を明らかにした。また、令和 6 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震における保健医療福祉調整本部の活動や、各支援チームの取り組みを参考に、DHEAT に関わる研修内容や保健医療福祉調整本部で扱うべき情報項目の整理を行った。研究内容としては、DHEAT の役割・機能の整理、DHEAT 研修の企画と実施、DHEAT 事務局のあり方、情報システムの検討という 4 つのテーマを設定した。

**A. 研究目的**

DHEAT（災害時健康危機管理支援チーム）は、災害発生時に被災地及び被災者の健康危機管理を行う組織の支援を行うことを目的として、平成 28 年度より研修が先行する形で事業が開始された。一方、IHEAT は、令和 3 年度より新型コロナウイルス感染症の拡大とともに、保健所に大きな業務負担が生じたことから、保健所の体制強化のために専門家を派遣する仕組みとして事業が開始された。今後、新型コロナウイルス感染症の流行が収まった場合には、IHEAT の仕組みが不要になることも予想される。

感染症流行時だけではなく、災害発生時も保健所の体制を強化する必要性はあり、感染症流行時に保健所の体制を強化する IHEAT を災害発生時にも活用できる枠組みは有用である。そのほか、感染症流行時に肥大化する保健所業務のマネジメントを行える人材である行政支援リーダーも、災害時の保健所業務のマネジメントを行える人材として登用できる可能性がある。

以上の背景を踏まえて、本研究では、DHEAT と IHEAT、さらには行政支援リーダーなどの役割・機能の整理を行うとともに、関係する活動要領や事業、情報システム及び研修に関して整理を行い、新しい防災・防疫における保健機能支援の枠組みを提案することを当初の研究目的に設定した。

しかし、IHEAT が制度化されたことに伴い、本研究では、災害時の本庁に設置される保健医療福祉調整本部における DHEAT の役割及び各保健所に応援に入る DHEAT の役割、そのほか、災害時の保健を支える情報システム周りの整理と訓練のあり方について、整理することに研究全体の目的を変更した。

具体的には、防災下における行政の保健機能の強化を担うことになる本庁保健医療福祉調整本部及び保健所に応援に入る DHEAT について、その役割や業務を実証実験の中から問題点の把握を行い整理することで、行政支援リーダーの役割を含んだ DHEAT のあるべき姿を提言する。さらに、あるべき姿を育成できるように災害時の保健所と保健医療福祉調整

本部が連動するための訓練内容の整理及びその実施手順を作成する。

その他、保健に限らず、災害時の保健医療福祉に係る情報システムの中から、保健活動に必要となるシステムからの情報およびその情報の理解の仕方について整理をし、災害時の需要と供給のバランスが取れる意思決定支援に役立つ情報分析能力を養う環境を整える。なお、保健所状況報告システムに掲載すべき情報についても検討を行う。

## B. 研究方法

本研究は、1) DHEAT・IHEAT・行政支援リーダーなどの役割・機能の整理 2) DHEAT 研修（縦に連動する）の企画と実施 3) 事務局要項の策定 4) 防災・防疫下における情報システムの検討 の4つの項目を行う。

### 1) DHEAT・IHEAT・行政支援リーダーなどの役割・機能の整理

現状の DHEAT、IHEAT、行政支援リーダーの役割と機能の整理、及び比較を令和4年度前半に行う。主に事業資料や研修資料を用いて各ステークホルダーの役割が明確化された情報の整理を行う。行政を支援する制度における防疫・防災下での違いを整理することで、役割や責務を明確にする。なお、IHEATの法定化されたことにより DHEAT と IHEAT の統一に向けた論点整理は行わない。

### 2) DHEAT 研修（縦に連動する）の企画と実施

制度から5年以上経過した DHEAT について、保健所の受援体制を強化する実践的な研修は行われてきている一方で、本庁に置かれる保健医療調整本部での DHEAT の役割に言及した実践的な研修は行われていない。このような状況を踏まえて、本庁に応援で入る DHEAT の役割・応援内容の整理と課題を把握すべく実働訓練を行う。そこで得られた課題をもとに、本庁保健医療福祉調整本部における DHEAT を育成できる標準的な研修内容を構

築する。あわせて、厚生労働省、本庁保健医療福祉調整本部、保健所、DHEAT 事務局が災害時に連動できるような、各ステークホルダーの訓練について整理を行い、それぞれの研修内容を策定する。さらに実働訓練の中で研修内容の精度を高める。

### 3) 事務局要項の策定

2) によって実施される実証実験、及び標準的な研修内容の整理から、DHEAT 事務局が行うべき役割（平時と有事）及び研修や訓練の際の活動内容について、研修や訓練の企画、見学、ヒアリングの中から DHEAT 事務局のあるべき形を提案する。なお、令和6年1月1日に発生した能登半島地震における保健医療福祉調整本部での活動も踏まえ、今後の DHEAT 事務局の役割を整理した。

### 4) 防災・防疫下における情報システムの検討

統括 DHEAT 研修が開始されたことを受け、保健医療福祉調整本部にてどのような情報項目を必要としているかと、現在稼働している保健所現状報告システムを用いて情報の分析判断を行う演習課題を実施する。そこで得られた演習結果より、DHEAT 特に保健医療福祉調整本部で扱うべき情報およびその扱うべき時期を整理する。

## C. 研究結果

### 1) DHEAT・IHEAT・行政支援リーダーなどの役割・機能の整理

各役割・機能の整理と統合に向け、令和4年12月までに終了した各研修・訓練に参加した（DHEAT 研修、IHEAT 研修、行政支援リーダー研修、スーパーバイザー研修）。これらから得られた知見を踏まえ、整理表を作成した。DHEAT、IHEAT、行政支援リーダー研修、スーパーバイザー研修他、各地で行われる医療活動訓練などから、各仕組みが求めているもの、研修対象者、研修内容、研修方法

について整理を行なった。各仕組みの整理を行う中で、各訓練で得られた知見のうち訓練の重複内容を基に、防災・防疫の訓練ストーリーの中で DHEAT、IHEAT、行政支援リーダー研修、スーパーバイザーの各機能を新 DHEAT の機能を盛り込む案を作成した。なお、IHEAT の制度化に伴い、DHEAT と IHEAT の再構築の検討は行わないこととし、行政支援リーダー研修の流れを汲んだ研修が開催されることが決まったため、これ以上の議論を行わないこととした。

そのほか、災害時における DHEAT の役割と福祉関連組織との連携の課題を明らかにする点においては、福祉支援組織所属者とのヒアリング、基礎自治体職員へのヒアリング、NGO 組織へのヒアリング、岡山県の災害福祉関係者へのヒアリングを実施した。研究結果から、DHEAT メンバーや統括 DHEAT の多くが福祉関連の具体的な災害支援組織についての認知度が低いことが明らかになった。また、基礎自治体職員の中では DMAT についての認識が最も高く、DHEAT や他の組織についての認知度は低いことが示唆された。保健師職の参加者は DHEAT については認識していたが、具体的な役割についての認識度は高くないことも明らかになった。

DHEAT および IHEAT の事業および研修の概要については、令和 4 年度の動向をふまえて整理した。令和 3 年度から 4 年度にかけては、複数の関係する法改正が行われたことなどもあり、DHEAT、IHEAT とも「地域保健対策の推進に関する基本的な指針」に明記され、それぞれの活動要領、運用要領が改正されるなど大きな変化があり、特に IHEAT は感染症以外の健康危機への対応も視野に入れた改正となった。

なお、IHEAT の制度化に伴い、DHEAT と IHEAT の再構築の検討は行わないこととし、行政支援リーダー研修の流れを汲んだ研修が開催されることが決まったため、令和 5 年度は、令和 4 年度以上の議論を行っていない

## 2) DHEAT 研修（縦に連動する）の企画と実施

DHEAT 研修や統括 DHEAT の在り方、DHEAT 事務局の在り方を検討するために、令和 4 年度大規模地震時医療活動訓練と令和 4 年度九州・沖縄ブロック DMAT 実働訓練において検討を行った。想定被災県の保健医療福祉に関連する支援団体の参集や各団体の動きについて聞き取りを行った。また、DHEAT 事務局も参加し、DHEAT 派遣に関する情報収集と被災都道府県庁の担当者や保健所との派遣調整について検討を行った。その結果、災害時に DHEAT が関わる様々な保健医療福祉に関する支援チームは、派遣やその調整、平時からの県との協定についてなど様々な問題があることが分かった。

さらに、保健所災害対応研究（DHEAT 基礎編）、DHEAT 標準研修、統括 DHEAT 研修の各研修を分析した。研修の目的とカリキュラムからは、共通して平時における研修や人材育成の実施が可能となる状態を目的とする点で一致することがわかった。

その結果、災害時に DHEAT が関わる様々な保健医療福祉に関する支援チームは、派遣やその調整、平時からの県との協定についてなど様々な問題があることが分かった。カリキュラムの中で災害時実務を重点的に学ぶ一方、目標で掲げられている平時における研修企画や人材育成の実施については、カリキュラム上では 1~2 セッションにとどまっていることもわかった。

## 3) 事務局要項の策定

DHEAT 研修、統括 DHEAT のあり方、DHEAT 事務局のあり方を検討するため、令和 4 年度大規模地震時医療活動訓練および令和 4 年度九州・沖縄ブロック DMAT 実働訓練において議論を行った。DHEAT 事務局としても、発災直後からの活動を想定し、被災県との DHEAT 派遣調整を実施した。保健師の応援派遣に関

する調整も行い、派遣期間や人数の見積もりに関する大まかな方針について、今後は事務局のみならず統括 DHEAT の教育内容に組み込む必要があることが示唆された。

令和 5 年度には、DHEAT 事務局における DHEAT 派遣調整訓練および保健師の応援派遣訓練を実施した。これらの訓練では、KMNIT. JP（災害保健情報システム）の保健師等派遣調整システムおよび DHEAT 派遣調整システムを活用した。また、令和 5 年度宮崎県保健医療福祉調整本部防災訓練でも DHEAT 事務局を設置し、本庁の保健医療福祉調整本部との連携について検討を行った。

これらの活動を踏まえ、DHEAT 事務局の要項策定を進める予定であったが、令和 6 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震の際、石川県庁保健医療福祉調整本部の活動を見学・調査する機会があり、この経験を通じて DHEAT 事務局の果たすべき役割を整理することができた。

#### 4) 防災・防疫下における情報システムの検討

D24H（災害時保健医療福祉活動支援システム）を中心に、EMIS、PEACE、くものいと、J-SPEED、HER-SYS など各システムの比較整理を行った。システムごとに対象や入力者、利用者の想定が異なるため、新たに DHEAT が利用する機能の検討に繋がった。

保健所の現状報告の分析からは、活動の継続と安全性の確保に重点が置かれ、活動場所の確保、応援体制、リエゾンの活用などが主要な議題となることがわかった。また、倒壊の危険性がある保健所での作業禁止、業務条件の確認、活動継続のための要員確保など、具体的な対応策についても議論された。これらの対策により、保健医療福祉調整本部の活動が円滑に進行し、地域の保健サービスが中

断されないようにすることが目指されている。

取得すべき情報項目については、急性期では被害状況の詳細な把握、道路や交通の状況、医療機関や福祉施設の現状、ライフラインの確保、市町村役場や災害対策本部の立ち上がり、避難所の開設と避難者数の確認が必要とされた。亜急性期では、外部組織からの支援、避難所の開設と受け入れ状況、福祉施設の状況把握が重要であった。移行期には、医療機関の回復状況、特に診療所や薬局の機能回復が共通の関心事項となった。

#### D. 考察と結論

IHEAT の法定化されたこともあり、本研究班で取り扱うべき研究目的を大きく変更させざるを得なかった。新 DHEAT の構築を目指すのではなく、現行の DHEAT について、新しく研究開発されたシステムや DHEAT 事務局の設置を絡め、今後の DHEAT のあり方を保健医療福祉調整本部内での役割、他支援チームとの関わり方の中で整理を行ってきた。実働訓練で観察、ヒアリング、さらには課題設定をする中で、今後の DHEAT に求められる要件が明らかになりつつある。

研究班 2 年目は研究期間の終盤で災害が発生したことにより、当初の計画より研究目的を大きく変更せざるを得なかった。しかし、研究成果の取りまとめ時期に能登半島地震が発生し、DHEAT が現場で活動する事態となったことで、保健医療福祉調整本部への調査や聞き取りを行う機会を得ることができた。これにより、今後の DHEAT 活動に役立つ知見を得ることができた。

今後は、能登半島地震で得られた教訓を踏まえ、平時からの備えとして DHEAT の各種研修において、他組織との連携、調整および情報共有が進められていくことが期待される。

#### F. 研究発表

##### 1. 論文発表

特になし

## 2. 学会発表

- 1) 小森賢一郎. 災害時における保健所業務量推計システム構築に関する研究. 第81回日本公衆衛生学会総会; 2022.10.7-9; 甲府 (ハイブリッド形式). 日本公衆衛生雑誌. 2022;69(10 特別付録): 399.
- 2) 小森賢一郎. 総合的な二次健康被害発生モデルの一試案. 社会・経済システム学会全国大会第41回大会; 2022.10.29-30; 大阪. 同一般報告予稿集. p.10-11.
- 3) 小森賢一郎, 富尾淳. 検索機能追加によるリポジトリとしての H-CRISIS 利便性強化の提案. 第28回日本災害医学会総会・学術集会; 2023.3.9-11; 盛岡. 同抄録集. p.329.
- 4) 小森賢一郎. 各種リスクに対応する業務継続計画の策定・改定に資する推計用知的資産に関する研究. 第82回日本公衆衛生学会総会; 2023. 10. 31-11. 2; つく

ば. 日本公衆衛生雑誌. 2023;70(10 特別付録):495.

- 5) 小森賢一郎, 富尾淳, 奥田博子. DHEAT における研修・訓練の企画立案を目的とした演習プログラムの開発. 第29回日本災害医学会総会・学術集会; 2024. 2. 22-24; 京都. 同抄録集. p. 315
- 6) 小森賢一郎. 災害時保健医療支援活動従事者を対象とするオンライン議論形式の演習に関する構想. 第34回社会システム部会研究会; 2024. 3. 11-13; 沖縄 (ハイブリッド形式). 同予稿集. p. 264.

## G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得  
特になし
2. 実用新案登録  
特になし
3. その他  
特になし